

公益財団法人 日本文学振興会

平成 22 年度 事業 計画

当法人の本年度に企画する事業は、定款第 3 条の「文芸の向上顕揚を図る」を目的として、第 4 条に基づく下記五賞の選考と授賞を行う。

大宅壮一ノンフィクション賞 第 41 回 (平成 22 年度) 平成 22 年 4 月中

故大宅壮一氏の言論活動を記念し、ノンフィクション界の新人育成を目的として、清新且つ創造的な作品を著した著者を選出し、賞金及び記念品を贈る。そして、松本清張賞と共にその贈呈式及び披露を行う。

対象は毎年 1 月 1 日より 12 月 31 日までに発行されたノンフィクション作品(ルポルタージュ、手記等、小説以外の作品)。日本文学振興会による予備選考を経て 4 月に選考委員会を開き、その結果は「文藝春秋」6 月号に場を借りて発表される。正賞は 100 万円、副賞は JAL 国際線往復航空券。選考委員は、猪瀬直樹、関川夏央、立花隆、西木正明、藤原作弥、柳田邦男の各氏。

松本清張賞 第 17 回 (平成 22 年度) 平成 22 年 4 月中

人間性を透視し、社会の暗部を凝視して、名作を数多く生み出した故松本清張氏の業績を記念し、長編小説の分野での、優れた作品の執筆者を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、大宅壮一ノンフィクション賞と共にその贈呈式及び披露を行う。

対象はジャンルを問わぬエンターテインメント小説。原稿枚数(400 字換算)300 枚から 600 枚まで。毎年 11 月末日締切。日本文学振興会による予備選考を経て、4 月に選考委員会を開き、その結果は「オール讀物」6 月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は 500 万円。選考委員は、伊集院静、大沢在昌、桐野夏生、小池真理子、夢枕獏の各氏。

芥川龍之介賞 第143回 (平成22年度上半期) 平成22年7月中

第144回 (平成22年度下半期) 平成23年1月中

故芥川龍之介の文業を記念し、日本文学に新風を送る作品を著した有為の新人を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、直木三十五賞と共にその贈呈式及び披露を行う。

対象は雑誌に発表された純文学作品(原則として原稿枚数200枚以下の短編)。

12月1日～5月31日を上半期、6月1日～11月30日を下半期とする。日本文学振興会による予備選考を経て、1月及び7月に選考委員会を開き、その結果は、「文藝春秋」9月号及び翌3月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。選考委員は池澤夏樹、石原慎太郎、小川洋子、川上弘美、黒井千次、高樹のぶ子、宮本輝、村上龍、山田詠美の各氏。

直木三十五賞 第143回 (平成22年度上半期) 平成22年7月中

第144回 (平成22年度下半期) 平成23年1月中

故直木三十五の文業を記念し、日本の大衆文芸に新生面をひらく有望な新人を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、芥川龍之介賞と共にその贈呈式及び披露を行う。

対象は12月1日～5月31日(上半期)及び6月1日～11月30日(下半期)に刊行された大衆文芸作品。日本文学振興会による予備選考を経て、1月及び7月に選考委員会を開き、その結果は「オール讀物」9月号及び翌3月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。選考委員は浅田次郎、阿刀田高、北方謙三、林真理子、宮城谷昌光、宮部みゆき、渡辺淳一の各氏。

菊池 寛賞 第58回 (平成22年度) 平成22年10月中

故菊池寛の日本文化の各方面に遺した功績を記念し、同氏が生前関係の深かった、

文学、映画・演劇、新聞、放送、出版（雑誌を含む）及び広く文化活動一般に於いて、清新且つ創造的業績をあげた人、或いは団体を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、その贈呈式及び披露を行う。

日本文学振興会による予備選考を経て、10月に選考顧問会を開き、その結果は「文藝春秋」12月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。選考顧問は東海林さだお、半藤一利、平岩弓枝、養老孟司の各氏。